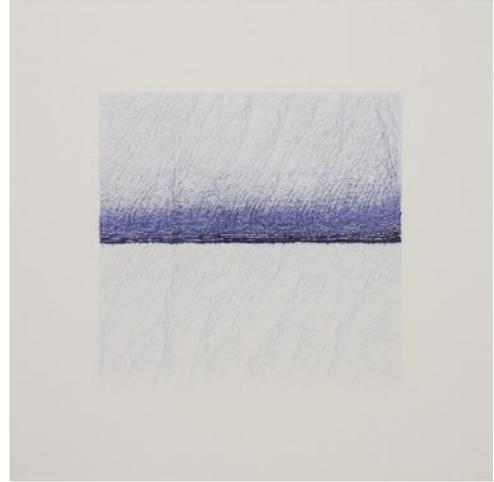




《鮮明な夢を見た》 2022 ミクストメディア 9.5×7.7×7.3cm  
※画像はイメージです



《Drawing for brush, ink and paper - single dip》  
12:02-18:01 13 Jul 2022  
pigment ink, Chinese paper 35×35cm  
※画像はイメージです

# 光へ漕ぐ舟

～手から生まれるはるかな広がり～ 8.26 sat — 11.19 sun

浜口陽三と桑原弘明、高島進、前田昌良

浜口陽三の銅版画の前に立つと、色の柔らかさと静けさに包みこまれます。  
その浜口陽三作品と共に、現代において繊細で澄んだ表現を追求する作家三人を紹介します。

手に包めるようなスコープの中に、静かな世界をつくる美術家・桑原弘明。

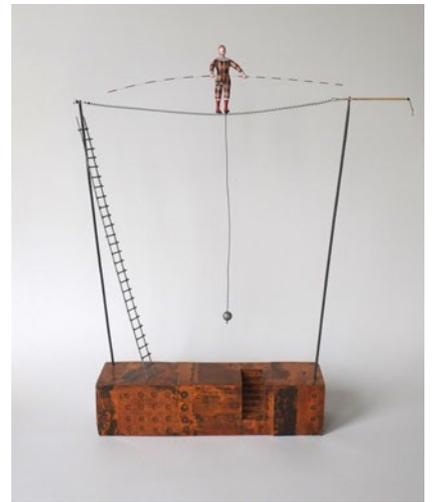
主観を排除し、素材と道具のためのドローイングを続ける高島進。

小さな動く彫刻に、純真な夢を込める前田昌良

小さな形や微かな線が遥かな広がりを内包します。

地平から空へ永遠へといぎなう、四人の作品世界をご鑑賞ください。

展覧会の顧問として、美術史家の矢内みどりさんをお招きしました。



《綱渡りの人生》 2005 木、金属、針金、塗料 高さ46cm  
※画像はイメージです

## 基本情報

会 期\_ 2023年 8月26日(土)～11月19日(日)

休 館 日\_ 月曜日、ただし9月18日、10月9日は開館、  
9月19日(火)、10月10日(火)は振替休館

開館時間\_ 平日11:00～17:00、土日祝10:00～/最終入館16:30  
第1・第3金曜日はナイトミュージアム(～20:00)

入 館 料\_ 大人 600円 大学・高校生 400円 中学生以下無料

主催・会場\_ ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

Tel\_03-3665-0251 Fax\_03-3665-0257

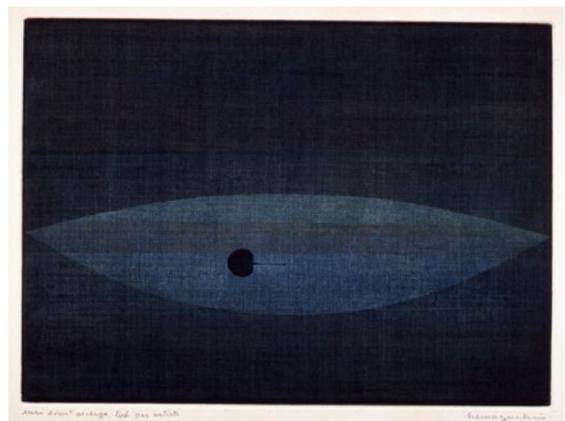
Mail\_musee@yamasa.com HP\_https://www.yamasa.com/musee/

アクセス\_東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば

東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分

首都高速箱崎IC[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前

展覧会顧問\_ 矢内みどりさん(美術史家)



《黒いさくらんぼ》 1960 カラーメゾチント 19.4×26.6cm



《青い扉》 2018  
ミクストメディア 6.8×6.8×6.8cm  
※画像はイメージです

## 桑原 弘明 KUWABARA Hiroaki

1957年茨城県生まれ 多摩美術大学油画科卒業  
80年代より極小のオブジェ作品を制作 1995年巖谷國士の序文を得て渋谷アートスペース美蕾樹で初個展 2000年ギャラリー椿で個展 2001年種村季弘の序文を得てスパンアートギャラリーで個展 以降毎年年末にギャラリー椿とスパンアートギャラリーで交互に個展 その他グループ展、美術館での展示多数

真鍮のスコープの中に、指先の上に乗るほどの精巧な家具などが閉じ込められています。スコープにあるいくつかの穴に光をあてながらのぞくと、光の角度によって時が移ろったり、思わぬ風景が現れたりします。



《少年の日々》 2017~2020 木、金属、針金、塗料 高さ13~15cm  
※画像はイメージです

## 前田 昌良 MAEDA Masayoshi

1956年大阪市生まれ。1983年東京藝術大学大学院修了。1984年～2023年77ギャラリー、小川美術館、雅陶堂ギャラリー、日本橋高島屋美術画廊、ギャラリーSU等で60回以上の個展を開催。2002年～2007年雑誌「別冊文藝春秋」表紙絵を担当、『アルネの遺品』『遺失物管理所』『別れの色彩』(新潮社)、『猫を抱いて象と泳ぐ』(文藝春秋)その他多くの本のカバーを担当。2011年作品集『星を運ぶ舟』(前田昌良著)を上梓(寄稿・小川洋子書下ろし『星座を描く少年』)。2014年「前田昌良—小さな動く彫刻の世界」横須賀美術館。

小さな動く彫刻は静かに語りかけます。この展覧会では、絵画と小さな動く彫刻を一堂に展示します。シンプルな線は、詩のように時の流れを奏で、純粋な夢や、心の中に忘れてしまっている記憶や感情を引き出します。毎日11:30、14:30、ナイトミュージアムの日には18:30頃に、小さな動く彫刻を動かしてご覧いただけます。

## 高島 進 TAKASHIMA Susumu

1959年兵庫県生まれ。1982年、武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。武蔵野美術学園で2年間、更にメキシコのアジェンデ美術学校で1年間、絵画を学ぶ。2000年多摩秀作美術展で大賞受賞、青梅市立美術館に作品が収蔵される。現在、東京(画廊香月、白銅鞮画廊)、福岡(ギャラリーモリタ)、サンフランシスコ、台湾で定期的に展覧会を開催。

作品は全て、線の太さが変わる素材を使ったドローイングです。筆の線は、インクを含んだ最初が太く濃く、徐々に細くなり、かすれていきます。反対に、色鉛筆や金属芯の線は、先を尖らせた最初が細く、徐々に太くなります。これら太さが変わる線を、規則的に反復し埋め尽くす事で、それぞれ素材固有の線の結晶体とも言える作品が生まれます。



《drawing for copper point, clear gesso and paper / gate B (yin)》  
copper, clear gesso, paper (Fabriano Rosaspina bianco 220g/m<sup>2</sup>)  
35×34cm (14×14cm) 9:40-13:04 1 May 2023  
※画像はイメージです

この作品では銅筆の線によって、表面に凸凹が生まれています。

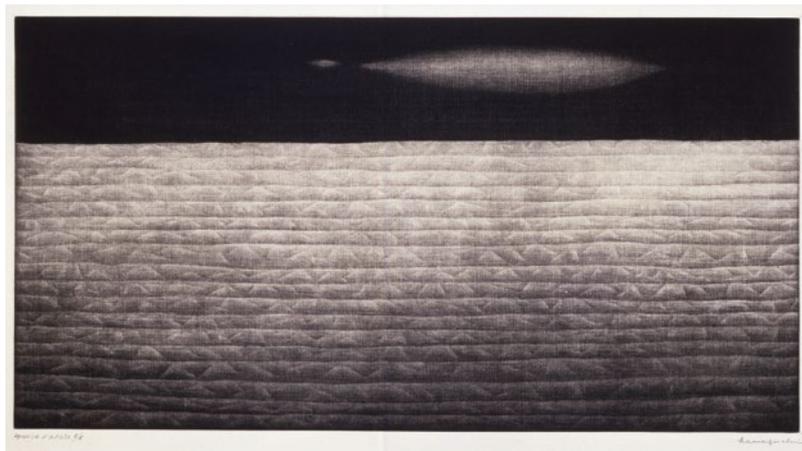
## 浜口 陽三 HAMAGUCHI Yozo

1909年和歌山県生まれ。1930年、東京美術学校(現、東京芸術大学)彫塑科を2年で中退し、フランスに渡り、油彩、水彩、版画など様々な表現を模索するが、1939年、第二次世界勃発のためやむなく帰国。1950年頃から本格的に銅版画に取組み、53年に再渡仏。新しい銅版画の技法、カラーメゾチントを開拓し、その技法を用いた作品により、1957年から国際コンクールでグランプリを受賞。静かな作風と神秘的な色は他の追随を許さず、20世紀を代表する銅版画家として国際的に活躍した。

銅の板を長い時間をかけて彫ることで生まれる柔らかい暖かい黒が特徴の一つです。

左の作品：赤、青、黄、黒の四色を、彫り加減によって神秘的な色彩を生み出すカラーメゾチント技法。

右の作品：白と黒だけのメゾチント技法。光をたたえ、背景の黒のなかにかすかな光があります。



左：《朱色の蝶》1979 カラーメゾチント 14.7×5.7cm  
右：《雲》1958 メゾチント 26.3×49.2cm

## Event イベント

- ◆ 出品作家のギャラリーツアー 8月26日(土)14:00～  
三人の作家と矢内みどり
- ◆ 出品作家の実演 前田昌良 10月13日(金)14:30～  
高島 進 10月の午後(予定)

## プレスリリースご担当者様

本展に関するお問い合わせは広報担当の下澤までお願いいたします。  
TEL 03-3665-0251 FAX 03-3665-0257  
メール musee@yamasa.com

ご自身の新しい宇宙を探しに展覧会にいらしてください。  
封筒をご提示いただくと、同伴者一名様まで無料でご覧になれます。